

学校での いま、「ユニセフ活動」が 果たす役割

「持続可能な社会の創り手」を育てるために

小・中・高等学校の新学習指導要領の前文には、共通して以下の文言が示されています。

一人一人の児童／生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、**持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。**

<新学習指導要領 前文より>

気候変動による自然災害の多発、格差や貧困、紛争やテロリズムなど、今の世界には、私たちの生活を「持続不可能」にしかねない様々な問題があります。技術革新が進み、人生100年時代とも言われる一方で、今の子どもたちが社会の主役となっているところに、世界がどのように変わっているのかを予測することは極めて困難です。持続可能な社会を創ることができなければ、私たち自身の暮らしも未来も危うくなる、そんな時代を生きていく子どもたちに、**学校での「ユニセフ活動」は、現在の世界の課題を学び、持続可能な社会を創るために必要な行動を起こす手がかり**を提供します。そしてそこには、かならず**“主体的で対話的な深い学び”**が生まれると確信しています。

学校で取り組む「ユニセフ活動」には次のような側面があります

- ✔ 同じ年頃の世界の子どもたちの状況を知り、そこから自分たちが暮らす世界のようなようすを知ることができます。
- ✔ 世界の厳しい状況下の子どもたちと比べて、よりチャンスが多い日本での自分たちの暮らしが、どのような人々の努力や仕組みに支えられているのか、気づくことができます。
- ✔ 世界の子どもたちを支援するためにユニセフがどのように活動しているか、また、子どもたちの未来を守る持続可能な世界を築くための取り組み(→P.7)を知ることは、社会や世界の困難な課題に立ち向かう方法を知ることにつながります。
- ✔ 自分たちにできることを考え、具体的な行動を企画し、実践することで、実際に変化を起こすために自ら動くことの大切さを学ぶことができます。
- ✔ 子どもたちによる行動が、学校内だけでなく、家族、周辺のコミュニティ、大人たちに影響を与えられることを知ります。